

宮城大学 後援会報

Vol.33

発行

平成22年12月30日

発行者

〒981-3298

宮城県黒川郡大和町学苑1-1

宮城大学後援会

TEL 022(377)8381

編集

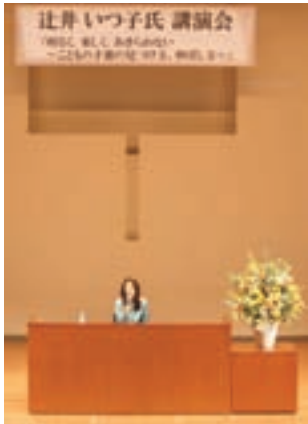
宮城大学後援会事務局

後援会主催事業 辻井いつ子氏 講演会

心に響く応援メッセージ

「つらい時は先を考えずに 今日一日を頑張ってみる」

恒例となった、大和キャンパス大学祭に合わせて行われる講演会（後援会、大学共催）が、10月10日、講堂で開催されました。今年、現在世界中で注目されている全盲のピアニスト、辻井伸行さんの母、辻井いつ子さんを講師にお迎えしました。テーママ



600人を超える来場者＝大和キャンパス講堂

は「明るく、楽しく、あきらめない子ども」の才能の見つけ方、伸ばし方。600人を超える聴衆が辻井さんの話に耳を傾けました。講演は、伸行さんが生後間もなく全盲とわかり、辻井さんが絶望と不安の中、手探りで子育てをスタートさせたことから始まりました。苦悩する日が続く中で一冊の本と出会い、その著者である福沢美和氏から「普通に育てなさい。お母さんの思ったこと、感じたことを素直に伝えれば、やがて、感性豊かな子に育ちます」とアドバイスされたことを機に、障害にとらわれず、自然体での「辻井流子育て」を見出していったとのこと。それは、伸行さんの音楽の才能に気付いてから、二人三脚でピアノへの道を歩み、「パシフィック・インターナショナル」

最後に自身の経験を振り返り「人生絶望することがあっても、あまり先のことを考えないで、今日一日頑張ってみようと思っただささい。何かしらの道がきつと見つかるはず」と心に響くメッセージで講演を締めくくりました。それは、穏やかな口調ながら、説得力のある心強いメッセージとして、聴衆の心に感銘を与えるものでした。

（後援会理事
中野三郎）



ノコンクール」でみごと優勝を果たすまでのこととして語られました。そこには「決して押し付けず、こどものしたいことを常に応援する」という辻井さんの姿勢が貫かれていました。そして辻井さんは「彼の運命は人との出会いによって開かれたものだと思います。人生はいろんな人と出会い、いろんなことを感じるのが大切」と結びました。

おめでとう！渡辺紗知さん 「全日本珠算選手権大会」第2位の快挙

優勝者とは同点決勝の僅差

毎年8月8日（そろばんの日）に開催される「全日本珠算選手権大会」。今年の大会は、滋賀県の野州市総合体育館で行われ、全国から452人の選手が参加しました。

競技のうち「個人総合競技」は、乗算、除算、見取算、乗暗算、除暗算、見取暗算の合計1500点満点で競い、その優勝者は、「そろばん日本一」と称えられます。

渡辺紗知さん（事業計画学科3年）は、個人総合競技で見事に1500点満点を獲得。ところが、満点獲得者が3人もおり、同点決勝が行われることになりました。しかも、顔ぶれは日頃から切磋琢磨する同じそろばん塾の仲間でした。これには渡辺さん自身とても驚いたそうです。決勝戦の結果、残念ながら第2位となりましたが、渡辺さんにとっては過去最高の成績を上げることができました。

種目別競技では、得意の「読上算」で3連覇を狙いましたが、惜しくも第2位。毎年順位が入れ替わる実力伯仲の大会のため、昭和29年から続く大会史上、「読上算」で2連覇を達成できたのは、渡辺さんを含めてたった2人しかいない快挙です。

これらの功績により、12月11日(土)には、独立行政法人日本学生支援機構「平成22年度優秀学生顕彰」で文化・芸術部門の優秀賞を受賞しました。

現在は、公認会計士を目指して勉強に励むかわら、そろばん塾で子供たちにそろばんの楽しさを教えている渡辺さん。そろばんは、忍耐力・持久力・集中力の強化や、計算力・記憶力の向上にとっても役に立つと実感しているそうです。今後の活躍が期待されます。

（大和キャンパス事務部学務課
千葉恵子）



第2位の盾を手にする渡辺さん

記事
一覧

●2・3面…主催事業「宮城大学と保護者の集い」、シリーズ「絆」、コラム、校章
●4・5面…大学祭、合同企業説明会（学内）、首都圏企業説明会
●6面…インターンシップ報告会、「教員からの一言」、「だし」紹介、卒業式案内、終身会員案内

ご家族と共に全力で学生を支援

過日の意見交換会において、大学の取り組みや親としての支援のあり方、就職後の高い離職率など、保護者の皆さまから、さまざまなお話をいただきました。就職試験や国家試験については、私たち教職員も高い関心を持ちながら対応しているところですが、その意味では、ご家族と教職員が一緒になって学生を支えていく意識を共有できたと思っております。

学生たちは実習と資格試験、就職試験など、さまざまな試験を乗り越えようと懸命に努力しているわけですが、そこで大切なのは、ご家族の理解とご支援であると考えております。私たちも学生たちを全力で支援してまいりますので今後ともよろしくお願い致します。

(看護学部准教授 佐々木久美子 学生委員長)



看護学部では教師陣によりきこまかに学生の様子について説明が行われた=11月6日 大和

学部への要望直接聞ける絶好の機会

爽やかな晴天となった11月6日、今回初めての企画となる学部毎の「保護者との集い」が開催されました。事業構想学部では、公開講義、学部の概要説明と質疑、キャンパスレインジャーによる学内見学会が行われた後、カフェテリアで保護者の皆さまと教員との交流会が行われました。

当日は、多くの保護者の皆さまにご出席頂き、大変有意義な意見交換ができました。学部毎の交流会では、和やかな雰囲気の中、保護者の皆さまからさまざまな相談や質問を頂きながら、学部に対するさまざまな要望を直にお聞きすることができました。来年度も、是非、こうした活発な意見交換や和やかな交流の機会を持つことができると感じました。

(事業構想学部教授 学生委員長 風見正三)



事業構想学部の「公開講義」につめかけた多くの保護者=11月6日 大和

保護者の方を通して新鮮な意見

今年の保護者の集いは、学部ごとの開催となりました。食産業学部では、模擬講義や学部紹介およびキャンパスツアーが行われ、懇親会では、学生が実習で育てた豚のもも肉を調理したローストップクや、学生が地域の生産者と共同で開発した漬け物などが出されました。ご参加いただきました保護者の皆さまには、ご満足いただけましたでしょうか。

教員にも思いがけない発見がありました。普段の講義や実習についての感想を、保護者の方を通して伺えたことです。学生が大学の講義や実習について、ご家庭でどのように話しているのかを知ることができて大変新鮮な思いがいたしました。このような発見があるのも、実際に保護者の皆さまとお話する機会があったからこそです。来年も多くの皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

(食産業学部教授 学生委員長 小林 仁)



保護者でぎっしり埋まった多目的教室 =11月20日 太白

コラム リサイクルを考える！ ②

食料自給率とリサイクル

食産業学部教授 博士(農学) 北辻 政文

今日の朝ご飯は、何を召し上がりましたか。和食なら、ご飯に豆腐の味噌汁、鮭の塩焼き、お漬物。洋食なら食パンに、ベーコンエッグ、コーヒーでしょうか。

さて、これらの食材の自給率を見てみましょう。ご飯は100%国産ですが、豆腐やお味噌の原料の大豆は大部分が輸入ですので、20%。鮭も輸入品が多く、30%。洋食に至っては、全体で10%以下となります。肉や卵は国産であっても飼料の90%が輸入ですので、自給率はきわめて低くなります。

食べ残した食材は生ごみとして廃棄され、その量は、家庭ごみの約30%です。自治体では、ごみを減らすために、リサイクルの支援をしています。すなわち、コンポスターなどの生ごみ処理機の購入支援です。生ごみは有機物ですから、たい肥化し土に還元すれば土壌を改良し植物を育む優れた資源となります。生ごみをたい肥化することは、ごみの減量とともに自治体のごみ処理費用の軽減にもつながり、一見、非常に良いことのように思われます。

しかし、外国から輸入された食料のたい肥化は、日本の農地(家庭菜園も含む)環境を悪化させることになりかねません。日本の農地だけでは、これらのたい肥を全て処理できないのです。つまり窒素過多となり、過剰の硝酸体窒素が野菜類に蓄積することや地下水の汚染などが危惧されているのです。これは、家畜の排せつ物のたい肥化も同様なことが言えます。食料を運んできた船に、たい肥を積み込み持ち帰るようなことをしない限り、日本の農地はますます悪くなり、現に悪影響が出てきている地域もあります。

現在の日本の食料自給率は41%です。10年後に50%にすることを政府は目標として掲げています。私たちの食生活の見直し、自給率の向上につながるともに、リサイクルの観点からも重要です。下図は、食材の自給率を示したものです。これを参考にし、食生活を見直してみましょう。



農林水産省資料より

宮/城/大/生/と/し/て/の/誇/り/と/自/覚 校章バッチを作製しました。

後援会では、宮城大学のシンボルマーク(図)を校章バッジとして作製し、学生へ配布することになりました。これは、学生の希望もあり決定したのですが、宮城大生としての自覚と誇りの象徴として、在学中に就職活動をはじめとするさまざまな活動の場面で役立ててもらおうためのものです。

宮城大学のシンボルマークには、中心に「杜」。それを取り囲み「ホスピタリティー」と「アメニティー」の2つのキーワードが印され、人間性豊かな知性と感性の涵養を目指す、宮城大の基本理念が込められています。



主催事業 「宮城大学と保護者の集い」

初の試み 学部別意見交換で相互理解深める

11月6日(土)に大和キャンパスで、11月20日(土)に太白キャンパスで「宮城大学と保護者の集い」を大学共催のもと開催しました。昨年度までは、後援会主催事業として「講演会」と同日に開催していましたが、今年度は「講演会」とは別日程で、それぞれの学部ごとの企画を取り入れた開催となりました。

6日の大和キャンパスでは、看護学部26人、事業構想学部64人の保護者の参加を、20日の太白キャンパスでは食産業学部38人の保護者の参加をいただいたほか、各学部とも多数の教員にも参加いただきました。

第一部の「意見交換会」では、学部ごとに「講義」や「学部紹介」、「意見交換」などが行われ、模擬講義を体験したり、日ごろの学習状況の報告や、会員から事前に寄せられた就職状況等の質問に教員が詳しく丁寧に回答するなど、参加された会員の皆さまも熱心に話に聞き入っていました。

各学部の「意見交換会」の後は、それぞれのキャンパスを案内する「キャンパスツアー」が行われ、大和キャンパスではキャンパスレンジャーという学生団体の学生が、太白キャンパスでは教員が、それぞれのキャンパスを案内しました。第二部では、それぞれのキャンパスのカフェテリアで茶話会形式の

「懇談会」が行われ、出席いただいた教員と会員で親睦を深めました。

開催方法を変更した初年度の集いでしたが、例年になく多くの方に参加いただき、アンケートなどでも多くの方々から有意義であったとの回答をいただき、後援会役員一同もほっとしているところです。

後援会や大学に対し、意見をいただき、さらには教員の皆さまとも親睦を深める唯一の機会でもありますので、今年度参加できなかった会員の皆さまも、ぜひ来年度は参加いただきますようよろしくお願い致します。(後援会事務局会計書記 菅原隆之)



和やかに歓談する教員、会員の皆さん=両キャンパスカフェテリア(上)大和



キャンパスツアーで食産ならではの温室見学=11月20日太白



キャンパスレンジャー(学生団体)によるキャンパスツアー=11月26日大和

絆

KIZUNA 2

「信じれば道は開ける」

事業計画学科1期生(平成12年度卒) 若居友紀恵

この春から母校で働き始め、あつという間に一年が経過しようとしています。

大学生活では、宮原育子先生の「旅ゼミ」(旅行事業ゼミ)仲間と過ごした日々が一番の宝です。当時、一番忙しいゼミとして有名で、毎週のように松島や矢本へ出かけ、聞き取り調査や観光資源の発掘など、活発に活動していました。苦楽を(と)いいながらも楽しい思い出が残っています(が)共にお陰で、今でも先生とゼミ生は家族のように強く繋がっています。

卒業後は、充実したOL生活を送っていましたが、海外に住むという夢を諦めきれず、ワーキングホリデーの年齢制限ギリギリに退職を決意しました。ソウルにある大学付属の語学堂へ週五日通い、新しいことを知る喜び、昨日聞き取れなかった言葉が今日聞き取れる感動に夢中になりました。その頃、向上心溢れる大学生にたくさん出会い、刺激を受け「働くのはいつでも出来るけど、勉強だけに時間を使えるのは今だけだよ。やりたいようにやっておいで」という母の後押しもあり、3か月の予定だった語学堂を1年に延ば

2回目となる今回は、若居友紀恵さん(宮城大1期生)にご登場いただきました。若居さんは現在、宮城大学事務部学務課に勤務され宮城大生をサポートしています。サポートされる側からサポートする側へ10年の時を経て、多くの経験と大きな志とともに母校へ戻ってこられました。

そして帰国後、大学生や留学生のために何か出来ればいな、と思っていたところ、母校の求人が出たのです。運と相性のお陰で無事に採用されました。本人以上に両親が喜んでくれました。母の嬉し涙を見た時、不安の中でも娘を信じて見守ってくれたんだなあ、と改めて実感しました。両親がこれまで注いでくれた愛情を、これからは私が家族に仕事に注ぎ、未来に向かっていく学生に負けないように私も成長していきたいと思えます。



語学堂のクラスメートと遠足で雪嶽山(ソラクサン)へ(若居さん前列、右2人目)

たくさんの来場者

支えてくださった方々に感謝！

10月9、10日に大和キャンパス大学祭を開催しました。今年のテーマは「show10」です。お客様を宮城大学で魅了しようと思ひ、考えました。

今年は例年に比べ学生の参加が多く、より宮城大らしさを感じることができた学祭だったと思います。ゲスト「HONEY」(パフォーマンスグループ)のダブルダッチと呼ばれる縄飛びの技は迫力があり会場は大きな歓声で沸きました。1日目の大抽選会は悪天候だったにも関わらず、多くのお客様が参加してくださり、思わず感動してしまいました。エンディングでは花火が打ち上げられ、初秋の空を鮮やかに飾りました。お客様はもちろん実行委員も含め、そこにいた全ての人々の目が、夜空に釘付けになりました。

TAIWA CAMPUS

私は大和大学祭実行委員長を務めて、多くの人に支えられていることを痛感しました。この場をお借りして、改めて、後援会を始め、企業の方々、学生のみなさん、大学祭実行委員のみなさんに感謝したいと思います。ありがとうございます。来年の大学祭もご期待下さい！
(大和キャンパス大学祭実行委員長
事業計画学科2年 榎祥吾)

食産業学部 首都圏大規模企業説明会参加を試みる

3年生の就活意欲へ弾み



バスで会場入りした52人出陣



最寄り駅から会場まで学生の長蛇の列



詰めかけた学生は3万人
東北では経験できない規模
=東京ビックサイト(東京都江東区)

11月6日、東京ビックサイトで行われた国内最大規模とも言える合同企業説明会「開幕★LIVE」(株式会社リクルート主催)に食産業学部3年生52人が参加しました。

当日は各業界を代表する企業100社以上が参加、詰めかけた学生は3万人と、東北では経験できない大規模なものでした。入場を待つ学生の列は、ピーク時には最寄り駅の隣駅まで迫る勢いでした。

貸し切りバスを後援会より支援いただいたおかげで、会場まではバス来場者用の入口からスムーズに入ることができ、一般の入場者よりも余裕をもって説明を聴くことができました。

本学の学生はこれまで、産業実習(3年生前期必修授業)やキャリアガイダンスで社会人としての基礎力を培ってきたためか、首都圏の大学生に比べても全く遜色なく、むしろしっかりとした印象を受けました。友人と一緒に目標も定まらぬまま行動する他大学生も見られましたが、本学学生の多くが、一人ひとり自分の目指す企業・業界を選んで自立して動いていました。本学の他にも全国の地方大学がバスで参加しており、北陸や中部、四国地方からも来ていました。

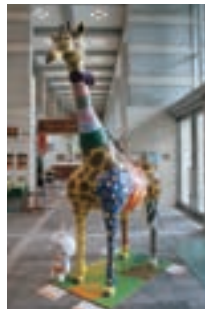
今回の経験を通じて、県内で聴くことのできないさまざまな企業の説明を受けたこと、首都圏の意識の高い学生から刺激を受けたこと、最大規模の説明会に出席したこと、バスによる日帰りの東京往復を体験したことなど、これから始まる厳しい就職戦線を勝ち抜くために参考となる点が多々あったことと思います。引き続き、一人でも多くの学生のみなさんが希望の進路に進むことができるよう、教職員一同支援して参ります。

参加した学生からは、「仙台では聴けないような企業の説明を聴くことができ良かった。」「今後の就職活動に向けて良い弾みとなった。」「人の多さに圧倒された。」「企業側から積極的に声をかけてもらい、予定していた業界以外の説明も聴くことができた。」などの声を聞くことができ、何かしら得るものがあったようです。

(太白キャンパス事務部総務学務課 木戸要介)



多くの来場者で賑わう広場



今年のオブジェはキリンさん



悪天候も何のその。大いに盛り上がったステージ(上)(下)



ゲスト「HONEY」のパフォーマンス、縄飛びの妙技



「娘すずめ。」の舞に拍手喝采



10のテーマに変身!MYUKUN



今年はミュージカルのような団体もありました

で賑わった MYU FES.2010

—10月、9・10日大和、16・17日太白で—

食産ならではの 美味しい食材でおもてなし

今年の太白キャンパスの大学祭は、天気にも恵まれ多くの人が参加してくれました。いろいろな模擬店やイベントがあり、大変盛り上がりました。模擬店では、定番の焼き鳥や焼きそばに加え、フカヒレカツのフカパーガー、米粉を使った米粉ピザや米粉チュロス、甘酒スイーツ、きりたんぼなど食産学部らしい一味違った工夫された食べ物の販売が目立ちました。ほかには、ヨガや実験体験ができるブースなど面白いものがありました。またメインステージのイベントは、もちまきや学科対抗で争う企画などがありました。多目的ホールでは、宮城大のサークルやアーティストのライブ、芸人のお笑いライブや大抽選会などがあり、大変多くの人が足を運んでくれました。来年は模擬店に力を入れて、より食産業らしさを出していければと考えています。多くの人に来ていただき、宮城大の知名度を上げられるようなものになりたいです。来年も食産業学部大学祭をよろしく願います。

(太白キャンパス大学祭実行委員長

フードビジネス学科2年 中村浩平)



太白は一味違う



精神統一、ザ・ヨガ!



食産伝統の餅まきに大歓声



重要ポイント、エコステーション



ナイスパフォーマンス



「結構なお点前で…」

3年生を対象に「合同企業説明会」開催

地元の企業・団体招く

就職活動の支援として「合同企業説明会」を11月12日(金)に大和キャンパス体育館で開催いたしました。地元企業を中心に42企業(団体)の参加をいただき、事業構想学部・食産業学部の3年生および大学院生など学生271人が参加しました。

学生は真剣に説明を聞き熱心に質問をしていました。参加された企業からは、「積極的に質問をして意欲的である。」「真面目で礼儀正しい。」などうれしい感想をいただきました。

なかなか好転する兆しのない雇用情勢ですが、学生の努力が実を結ぶよう期待し支援を行っていきます。

古川陸美



42企業・団体のブースが設けられる=大学体育館



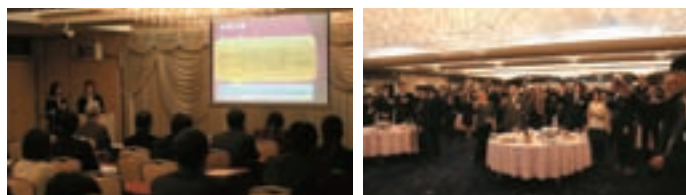
真剣に説明を聞く学生

研修先招き体験報告・意見交換会開く

事業構想学部インターンシップ報告会及び意見交換会を、11月24日、仙台市青葉区のホテル白萩において開催しました。受入先の企業・機関をはじめ、後援会役員の方々にもご出席いただき、学生、教職員を合わせて総勢143人が参加しました。

事業構想学部「インターンシップⅠ」は、学部の2年生を対象とし、県内を中心とした企業・機関における職場の体験を目的とした授業科目です。4月のエントリーでは、昨年より希望者が増え、学生の関心の高さがうかがえました。そして、学生たちは、企業研究、ビジネスマナー講習といった準備をして、夏の企業・機関における研修に臨みました。今年は例年にない猛暑の中でしたが、皆無事に研修を終えることができました。これも学生自らが目的意識を持って研修に臨み、これを支えてくださった企業・機関やご家族の皆さまのご協力の賜物です。意見交換会の会場では、参加者の皆さまが暑かったこの夏の研修をなつかしく振り返っていました。

(事業構想学部「インターンシップⅠ」担当 助教 相模誓雄)



食産 研究の成果を作品に

—山形の郷土料理アレンジで「伊達なだし」3種類を開発—

このほど、食産業学部の7人の学生有志と、大崎商工会鹿島台支所及び地元竹谷加工部会の皆さまとのコラボレーションで新製品「伊達なだし」を開発しました。

山形の郷土料理「だし」をアレンジし、「だし」のようにご飯やお豆腐などにのせて食べられる製品というコンセプトに沿って、鹿島台のトマト、モロヘイヤ、ミヤギシロメ(大豆)や、品井沼で採れる「ひし」という特産物も使い、「トマト味」、「醤油味」、「辛味噌味」の3種類の新製品「伊達なだし」を完成させ、11月20日開催の鹿島台のミニ五市でお披露目しました。しばらくの間は、鹿島台商店街で200g入り200円で限定販売される予定です。

(食産業学部フードビジネス学科教授 川村 保)



◇終身会員制度のご案内◇

後援会では保護者の方々が、学生の卒業後も宮城大学を支援する終身会員制度を設けています。

卒業生の保護者の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの方々に入会いただき、在校生の保護者の皆さまと共に、大学を支える大きな力となっています。会員の方には年3回発行の後援会報、大学及び後援会主催事業の御案内を20年間送付いたします。

大学間の生き残りをかけた競争が激化する中、自主自律の運営を目指す宮城大を、更なる充実した支援で、物心両面から支えてまいりたいと考えております。

卒業生の保護者の皆さまには、新年改めて御案内いたしますので、何卒、制度の趣旨を御理解いただき、多くの方に御賛同いただきますようお願い致します。

(後援会事務局)

教員からの一言

「社会人」になる



食産業学部
フードビジネス学科
教授 小林 仁

最近の就職試験は、筆記試験や面接を段階的に行う場合が多く、その中にグループディスカッションというものがあります。グループディスカッションでは、与えられたテーマについて、5人程度のグループで決められた時間内に議論をおこない、議論の過程や結果が評価されます。はじめに司会者や発表者などの役割を決め、議論を進めます。司会者は、話がうまく進めば高く評価されりターンも大きいのですが、

その分リスクも大きいので敬遠されがちです。役割を決めるのに時間がかかると、議論する時間が短くなってしまう。もし司会に誰も立候補しなければ、グループ全員の評価が下がり、次に進むことは難しくなります。社会人であれば、苦手なことでもやらなければいけない場合がある事を経験的に知っていますが、学生は普段通り(?)黙ってやり過ごそうとします。受け身でしか対応できない学生は、就職活動で初めて社会の厳しさを知ることになるのです。

最近の東洋経済誌に、「親のサポートが今の就職活動には必要!」という記事がありました。社会人になるとはどういうことなのか、今一度ご家庭の中でも話し合われてはいかがでしょうか。

◇大学からのご案内

—来春卒業予定の学生・ご家族の皆さまへ—
平成22年度

宮城大学卒業証書・学位記授与式を挙ります

■日時:平成23年3月18日(金)

受付 午前9時開始

式典 午前10時~11時50分頃

■場所:大和キャンパス講堂

卒業生のご家族の皆さまと共に、教職員一同、卒業生の新しい門出を祝福したいと思います。どうぞご出席ください。

式典の詳細は、大学のホームページに掲載しておりますのでご参照願います。(URL: <http://www.myu.ac.jp/>)

なお、式場内の座席数は限られているため、満席となった場合は、式場外のモニターでご覧いただくこととなりますので、あしからずご了承ください。

宮城大学事務部学務課

☎022(377)8218

編・集・後・記

記録的な猛暑だった夏も、季節は巡り、木枯らしが吹き始めました。

大学では既に三年生の就職活動が始まっております。雇用状況は依然厳しいままで、季節の移ろいのように、簡単には好転しそうにもありませんが、四年生同様、しっかりと大地に根を生やし、やがて見事な花を咲かせてほしいと思います。

来年の干支は「卯」。皆さまにとって、更なる飛躍の年となるようお祈り申し上げます。良いお年をお迎えください。(S・I)